

『DVDワールド』

宮杉 浩

過去2回に渡ってお話ししてきました「DVDワールド」も今回が最終回です。今回は既に動き始めている次世代DVDを中心にDVDメディアの今後についてお話しいたします。

映像記録・再生メディアがビデオテープからDVDに主流が変わってきている事は話ししてまいりました。そしてそのDVDも新しい次世代DVDと呼ばれるものが既に登場しています。その双璧がBlu-ray Disc（ブルーレイディスク）とHD DVDです。次世代DVDに二つの規格が存在しているのは、開発している電機メーカーが違うためであり、これからのシェア争いが非常に注目されています。

Blu-ray Disc（ブルーレイディスク：略称BD）はソニーや松下電器産業などが策定した次世代DVD（光ディスク）規格で、DVDの5倍以上の記憶容量があります。1層につき25GBで現在2層50GBのディスクまで発売されており、将来的には8層200GBという今までのディスクの常識をはるかに上回る容量のBDが発表される見通しです。不正コピーなどへのセキュリティ対策、ディスク材質の環境への配慮などがDVDより向上し、今後の発展が期待されています。DVD同様再生専用と書き込み可能型のディスクがあり、既にBD搭載のレコーダーやパソコンも登場しています。また、人気テレビゲーム機器であるプレイステーション3の標準メディア規格として採用されています。

HD DVD（High-Definition Digital Versatile Disc）は東芝とNECが共同で開発している規格で、ディスクドライブ装置に使われる読み取りレンズのシェアが世界の三洋電機も参加しています。現行のDVD規格をベースに記憶容量の向上が図られていて、1層15GB、2層30GBの容量があります。BD同様今後のハイビジョン放送時代への対応もなされています。読み取り専用のHD DVD-ROM、書き込み可能の記録型HD DVD-R、-RW、-RAMがあり現行のDVD規格と近い点が特徴です。

BDとHD DVDはもともと両開発メーカー間で規格統一が図られていましたが、合意に達する事ができず、それぞれの規格が開発、発売となりました。そのため業界でのシェア争いが勃発し、かつてのビデオテープ規格（VHS規格とベータ規格）の様に今後の行方が各種業界、ユーザー両方にとって注目されることとなっています。現状ではBD陣営が優勢と伝えられており、映像ソフト製作メーカーなどの動きが今後の行方を左右するものと思われます。

今後地上波デジタル放送開始も含め、ハイビジョン映像配信の時代が到来する事により、これら次世代DVDが主流となるのは間違いありません。BDとHD DVDのどちらが主流となるかはわかりませんが、私たちは自分のライフスタイルに合わせた選択をしていく必要があるのではないのでしょうか。

みやすぎ ひろし（係・管理運営課）